

# 理論懇ニュース2025年第1号

2025年3月24日

発行：理論天文宇宙物理懇談会事務局  
(京大基研 青木勝輝)

# 理論天文学宇宙物理学懇談会 総会

## 2024年12月25日(水)

### • 報告

- 新運営委員会発足および各種選挙
- 物理学会関係の報告（須山さん）と領域委員の承認[←議題]
- 会計報告（青木さん：オンライン）
- 天文台からの報告（高橋さん、冨永さん）
- 基研からの報告（向山さん）

### • 議題

- 理論懇シンポジウム: 次回・次々回
- 天文天体物理若手夏の学校について（橋ヶ谷さん：オンライン）

# 報告

# 新運営委員会(2024年12月から)

- 2025年11月末まで(非改選)
  - 浅野 勝晃 (宇宙線研)
  - 大平 豊 (東京大)
  - 須山 輝明 (東京工業大)
  - 高橋 亘 (国立天文台)
  - 向山 信治 (基研)
- 2026年11月末まで (10/15–10/23投票) よろしくお願ひいたします。
  - 町田 真美 (国立天文台)
  - 諏訪 雄大 (東京大) **委員長**
  - 矢島 秀伸 (筑波大)
  - 高田 昌広 (カブリIPMU) **副委員長**
  - 横山 修一郎 (名古屋大)
- 事務局長 (2024年10月–2025年9月末) 青木勝輝 (基研)

# 理論懇関係選挙: 結果 (10/15-10/23投票)

- 基研運営協議会委員 (正候補+補欠、順位をつけ2+2名)
  - 1. 田中貴浩 (京大) 2. 戸谷友則 (東大) 3. 大向一行 (東北大) 4. 吉田直紀 (東大)
- 基研共同利用運営委員 (正候補+補欠、順位をつけ2+2名)
  - 1. 菅野優美 (九大) 2. 西道啓博 (京産大) 3. 仏坂健太 (東大) 4. 諏訪雄大 (東大)

# 物理学会関連の報告

# 物理学会関連

- 第19回日本物理学会若手奨励賞

- [理論] 多田祐一郎（名古屋大学 高等研究院・理学研究科）
- [実験] 加藤勢（東京大学宇宙線研究所）
- [実験] 原田将之（東京大学宇宙線研究所）

- **春の物理学会 3日目(3/20 午前) に受賞記念講演が予定されています。**

# 物理学会関連（続き）

- 物理学会の領域委員の推薦

- (任期: 2025年10月-2027年9月、このうち運営委員兼務 2026年4月-2027年3月)

**高橋 龍一氏 (弘前大)**を領域委員として推薦することを**ご承認**ください。[←議題]

→**総会で承認された。**

- 現在の委員は諏訪雄大 (東大)と須山輝明(Science Tokyo)で、須山と高橋氏が交代になります。



# 学会での報告会

## 報告会は合同開催(ハイブリッド)を予定

- \* 物理学会春季大会 (3/18-3/21) : 完全オンライン
- 天文学会年会 (3/17-3/20) : 現地開催 + オンライン

日時やミーティングURLは後日MLで連絡

# 会計報告

# 理論懇事務局 報告

## 1. 会計報告 2023年度会計：2023年10月1日～2024年9月30日まで

収入 4,203,347円（前年度からの繰越し）  
336,250円（会費納入のべ 109名（うち2名は振込元不明））

支出 5,618円（レンタルサーバ使用料＋振込手数料）  
4,532円（レンタルサーバドメイン使用料＋振込手数料）  
6,975円（2023年理論懇シンポジウム諸経費）  
194,751円（2023年理論懇シンポジウム旅費補助＋振込手数料）  
100,146円（天文天体物理夏の学校補助＋振込手数料）  
1,100円（引き継ぎ書類郵送費）

計 4,226,475円

## 2024年度会計：2024年10月1日～2024年12月20日まで

収入 4,226,465円（前年度からの繰越し）  
50,500円（会費納入のべ 16名）

支出 6,600円（レンタルサーバ使用料）  
7,425円（2024年理論懇シンポジウム賞状代）

計 4,262,950円

# 理論懇事務局 報告

## 2. 会員数：579名（2024年12月20日現在）

2023年度	新規入会28名	退会2名
2024年度（12月20日まで）	新規入会 9名	退会2名

会費滞納者数（前年度までの累積滞納年数）

5年分以上滞納	98名（→督促）
4年分滞納	27名
3年分滞納	13名

海外在住中の納入猶予；（理論懇ホームページ「会費納入について」）

海外在住中は会費納入が困難なことから、申請があれば納入猶予を認めます。

ただし**免除**にはなりません（2010年度総会）。申請は年度毎に事務局まで申請して下さい。

納入猶予制度は海外からの振込が困難である方のための制度です。

今回は事務局不在のため、現地での会費徴収は行いません。  
**ゆうちょ銀行への振り込みでの会費納入にご協力ください。**

よろしくお願いいたします

# 国立天文台・基研報告

# 国立天文台報告

# 天文台全体に関わること

- 執行部 (2024.4.1~)
  - 台長：土居守
  - 副台長：吉田道利 (総務)、齋藤正雄 (財務)
  - 技術主幹：鵜澤佳徳、研究連携主幹：生駒大洋
- 科学研究部 (2024.4.1~)
  - 部長：富永 望
- CfCA科学諮問委員、研究交流委員会、プロジェクト評価委員会、科学戦略委員会の推薦選挙ありがとうございました。

# 天文台全体に関わること

- 運営会議委員[2024/4-2026/4]

## 台外委員：

荒井朋子（千葉工業大学）、大向一行（東北大学）、栗木哲（統計数理研究所）、河野孝太郎（東京大学）、兒玉忠恭（東北大学）、小林かおり（富山大学）、住貴宏（大阪大学）、田越秀行（東京大学）、山田亨（宇宙航空研）、横山央明（京都大学）、米倉覚則（茨城大学）

## 台内委員：

生駒大洋（研究連携主幹）、鵜澤佳徳（技術主幹）、臼田知史（TMT）、齋藤正雄（副台長）、野村英子（科学研究部）、深川美里（アルマ）、本間希樹（水沢VLBI観測所）、宮崎聡（ハワイ観測所）、吉田道利（副台長）、渡部潤一（天文情報センター）



科学研究部・天文シミュレーションプロジェクトに関わること  
(2024年7月以降)

# 人事公募(2024年7月以降)

- 科学研究部
  - [公募] なし
- CfCA
  - [公募] なし
- 国立天文台全体での公募で科学研究部関係分
  - [公募] NAOJ fellow (例年7月頃にアナウンス)
  - [公募] EACOA fellow (例年夏にアナウンス)
  - [公募] プロジェクト研究員 (例年8月頃にアナウンス)

# 人事異動（転入） 2024年7月以降

- 科学研究部

- 伊藤 祐一（特任助教）
- 大野 和正（NAOJ fellow、特任助教）
- Yu Cheng（EACOA fellow）
- TiangFang Zhang（特任研究員、ADC兼任）
- Albert Manas Escriva（特任研究員）
- Thai Tran（国立天文台PD）
- Piyali Saha（国立天文台PD）
- Junhao Liu（国立天文台PD）

- CfCA

# 人事異動（転出） 2024年7月以降

- 科学研究部

- Peter Behroozi（特任准教授 → Univ. of Arizona Associate Prof.）
- 谷口 琴美（NAOJ fellow → ALMA 助教）
- Yechi Zhang（学振PD → Caltech Postdoc）
- 土井 聖明（総研大D3 → MPIfA Postdoc）

- CfCA

# 人員構成（2024年12月時点）

## 科学研究部（\*はCfCA兼任）

- [教授] 野村、大内、生駒、富永\*、郡
- [准教授] 中村、藤井、町田\*
- [特任准教授] 馬場淳一（鹿児島大学とのクロスアポイントメント）
- [助教] 浜名、片岡、守屋\*、森野、原田、Dainotti、高橋
- [国立天文台フェロー] 杉山、長倉、Arzoumanian、小久保(充)、柏野、大野、[特任助教] 中島、伊藤、[EACOAフェロー] Cheng、[特任研究員] Zhang(H.)、Dorozsmai、柏木、Totorica、Tran、Saha、Liu、Escriva、Zhang(T.)、[学振特別研究員] 森(正)、日下部、奥谷、森(寛)、Chaudhuri、Fang、[研究支援員] 松下、五十嵐、永井、[事務職員] 加藤、一丸、飛澤

## CfCA（\*は科学研究部兼任）

- [教授] 小久保（英）\*、[准教授] 滝脇\*、[講師] 伊藤（孝）、[助教] 岩崎\*、[特任専門員] 武田、波々伯部、福士、[特任研究員] 出口、松本、Keszthelyi、三杉、Huang、[専門研究職員] 中山、[研究支援員] 加納、木村、長谷川、[事務職員] 増山

\*緑字は2024/7以降の転入メンバー

# 共同利用

- 2025年度滞在型共同研究
  - 第1回募集締切：2025年1月17日（金）17時（日本標準時）
  - 第2回募集締切：2025年6月20日（金）17時（日本標準時）
  - 第3回募集締切：2025年7月4日（金）17時（日本標準時）
- 2025年度研究集会
  - 第1回募集期間：2025年1月17日(金)17時（日本標準時）
  - 第2回募集期間：2025年1月31日(金)17時（日本標準時）
- 2025年度NAOJシンポジウム
  - 例年4月頃アナウンス
- 2025年度客員教授等
  - 例年8月頃アナウンス
- サバティカル研究者の受入れ
  - 随時

# CfCA計算機共同利用等

2024年度 CfCA 共同利用

- **XD2000について**

- 2024年(令和6年) 12月より運用開始しました。
- 2024年度にXC50の利用申請が採択されている方は、同じカテゴリで、XD2000をお使いいただけます。
  - 例: XC-A → XD-A, XC-B → XD-B
- XD-Trial : 随時の申請を受け付けています。

- **三鷹機材の運用について**

- 2024年(令和6年) 12月より運用開始。いくつかの機材はまだ更新中。

# 計算基礎科学連携拠点

- 富岳成果創出加速プログラム

シミュレーションとAIの融合で解明する宇宙の構造と進化

- サブ課題B 大規模シミュレーションで挑む星・惑星形成過程の階層横断的研究

小久保, 岩崎が参加.

- 機関：東北大学, 国立天文台, 東工大, 岡山大, 神戸大

- サブ課題C ブラックホールと中性子星を核にした爆発的天体現象の解明  
滝脇、町田が参加

- 機関：筑波大学, 千葉大学, 早稲田大学, 国立天文台, 沼津高専

2024/08/28 高性能計算物理勉強会(第22回)

2024/09/06 AstroAI Asian Network (A<sup>3</sup> Net) summer school

2024/09/09 情報科学技術との融合による太陽圏物理学の新展開

2024/12/07 高性能計算物理勉強会(第23回)

2025/01/08 「富岳」成果創出加速プログラム・基礎科学合同シンポジウム 2024



# 科学研究部科学諮問委員会

台外委員：犬塚修一郎、大須賀健、戸谷友則（理論懇談）、百瀬宗武（宇電懇）、井上昭雄（光赤天連）

台内委員：竝木則行 (RISE)、青木和光 (ハワイ/TMT)、阪本成一 (ALMA)、都丸隆行 (重力波)

- 6月14日に第1回委員会が開催され、委員長が犬塚氏、副委員長が百瀬氏と決まった。議事録は公開されている。
- 9月20日に第2回委員会が開催された。議事録は公開される。
- 11月27日に第3回委員会が開催された。議事録は公開される。
- 重要な議題は科学研究部ミッション（案）の作成

# 科学研究部ミッション（案）

- 前提条件
  - 科学研究部全体として満たしていればよい
  - 個々の研究者が個人として全て満たす必要はない
  - 個人研究は含まない
  - Missionの項目に優先順位はなく並列

# 科学研究部ミッション（案）

- Purpose
  - 科学研究部は、国立天文台の現行プロジェクトと将来計画の推進に貢献する。さらに国内外のプロジェクトと連携した研究やプロジェクトの枠を超えた研究を、自由な発想と広い視野で推進する。以上により、世界の天文学研究の発展に寄与する。
- Mission
  - 国立天文台の現行プロジェクトの科学的成果創出に貢献し、広く長期的な視点で将来の天文学を検討し、将来計画の推進や検討に科学的観点で貢献する。
  - 国内外のプロジェクトからの成果創出や、その将来計画に貢献する。
  - 観測・理論の枠を超え、プロジェクトの枠を超えた研究を展開し、自由な発想と多様な手法で研究を推進し、世界第一線の成果を挙げる。
  - 大学院教育を含む若手研究者育成を進め、広い視野を持って研究を牽引する研究者の育成を目指す。さらに活発な人事交流を進めることで、国内外の多様な次世代研究者を惹きつけ、世界の天文学研究のキャリアパス拠点となる。
  - 国内外の研究者、国立天文台の内外のプロジェクトとの交流、連携を促進し、天文学研究の重要な拠点かつ結節点として我が国の天文学研究の強化や国際化に貢献する。

# 京都大学基礎物理学研究所報告



第37回 理論懇シンポジウム  
理論天文学宇宙物理学懇談会報告会

2024年12月25日 国立天文台三鷹キャンパス

# 1. 人事

## ■ 所員人事

### <就任・着任予定>

早川尚男（次期所長）

4. 1 基研教授

北野 龍一郎（素粒子、教授）

4. 1 KEK教授より

### <転出>

花井 亮（助教、物性）

11. 30 東京科学大学准教授へ

### <選考中>

非平衡分野助教

2025年1月下旬決定予定

## ■ 基研特任助教（研究員）

宮田 晃宏（素粒子、科研費、1. 1～）

■ 外国人客員教授（2024～2025年度）

2025.1.9～2.9

**HUANG, Xu-Guang**（Fudan University：核）

2025.1.1～3.31

**CHANG, Po-Yao**（National Tsing Hua University：物）

2025.4.1～6.30

**DHAR, Abhishek**

（Tata Institute of Fundamental Research：物）

2025.5.17～9.9のうち3か月

**VERNIZZI, Filippo**

（Institut de Physique Theorique, CEA Saclay：宇）

2025.10.1～12.31

**RYCHKOV, Slava**

（Institut des Hautes Études Scientifiques：素）

## 2. 計算機システム

- 国内機関に所属する理論物理学研究者、一時的に海外の研究機関に所属する日本人若手研究者に無料提供。
- 現計算機の5年間の総レンタル料は、約4.7億円。
- 2026年の次期計算機導入に向け、仕様策定委員会を設置して議論を開始。ご要望があればお知らせください。

## 3. 共同利用におけるコロナ禍対応

- ➡ コロナ禍ルールは廃止。
- ➡ WEB会議システムのライセンスは引き続き提供。

## 4. 基研研究会・所員主催研究会（2025年1月以降）

- |           |  |
|-----------|--|
| 1/20-1/24 | Recent Developments in Black Holes and Quantum Gravity |
| 1/27-1/31 | Gravity 2025: New Horizon of Black Hole Physics        |
| 1/27-1/30 | Nucleosynthesis and Evolution of Neutron Stars         |
| 2/17-2/21 | Quantum Gravity and Information in Expanding Universe  |
| 3/24-3/28 | Stellar black hole formation and detection             |
| 4/2-4/4   | Hadron in Nucleus 2025 (HIN25)                         |

**2025年度計画は、2025年1月の共同利用運営委員会で決定。**

## 5. 国際モレキュール型プログラム

- |           |  |
|-----------|--|
| 1/13-1/24 | Topology and Dynamics of Magneto-Vortical Matter |
|-----------|--|

**随時募集中**



## 6. 国際滞在型研究会



### 2025年度

- ***“Progress of Theoretical Bootstrap”***  
2025.10.27～11.28      中山 優

- ***“Multi-Messenger Astrophysics in the Dynamic Universe”***  
2026.1.26～2.27      井岡邦仁

連動 ***YKIS2026a “Black Holes and Neutron Stars with Multi-Messengers”***

2026.2.9～2.13

### 2026年度

- **原子核分野で準備中**

## 7. 国際共同利用・共同研究拠点に認定

2025年度から**国際共同利用・共同研究拠点に認定**されることが決定。さらなる国際化と、若手育成プログラムの充実を図る。計算機資源の提供や国内向け制度も継続。

- ▶ 若手国際ワークショップ

若手が中心になって企画・運営する国際会議。

- ▶ 国際スクール

分野をリードする講師を国内外から招へい。  
スクール形式の研究會。

- ▶ 若手派遣招へいプログラム

➡ 2025年度実施予定



公募中  
締切1/5

## 8. 運営関係

### ▶ 所長・副所長について 2025年3月まで

所長 青木 慎也  
副所長 井岡 邦仁

### ▶ 運営協議会委員

基研の運営全般（人事、予算など）について決定

3月まで 戸谷 友則（東大） 横山 順一（東大）

次期 戸谷 友則（東大） 田中 貴浩（京大）

<所内> 柴田 大、向山 信治、井岡 邦仁

### ▶ 共同利用運営委員

共共拠点の研究計画の採択と予算配分を決定

3月まで 菅野 優美（九大） 仏坂 健太（東大）

次期 菅野 優美（九大） 西道 啓博（京産大）

<所内> 樽家 篤史

# 議題

# 最近の理論懇シンポ

- 2015 大阪大学 「宇宙における天体形成から生命まで」  
– 星・惑星形成、元素合成、化学進化、地球科学等に関する分野の招待講演
- 2016 東北大学 「重力が織りなす宇宙の諸階層」  
– 修正重力・統一理論から天体力学まで、重力が関係する幅広い分野の招待講演
- 2017 東京大学 「星の物理の新地平」  
– 幅広い意味での星の物理に関する招待講演
- 2018 京都大学 「宇宙物理の標準理論：未来へ向けての再考」  
– 宇宙物理学各分野のエキスパートによる標準理論の招待講演
- 2019 国立天文台 「天文学・宇宙物理学の変遷と新時代の幕開」  
– 未解決課題と新たな課題，そして新時代の理論研究が目指すべき方向性について議論
- 2020 名古屋大（オンライン） 「理論天文学・宇宙物理学のブレイクスルー」  
– 直近に起こった各分野のブレイクスルーをレビューし、将来研究の指針を議論
- 2021 ICRR+IPMU（オンライン） 「挑戦的アイデアで広げる宇宙物理の可能性」  
– 挑戦的なアイデアあるいは国内外の新奇な研究の試みについて多様な議論
- 2022 福島大学 「理論天文学・宇宙物理学の広がり：さらなる発展に向けて」  
– 理論天文学・宇宙物理学の多岐にわたる分野の発展的な議論
- 2023 弘前大学 「高赤方偏移のフロンティア」  
– 初期宇宙や強重力場天体のフロンティアについて議論
- 2024 国立天文台 「宇宙論100年：これまでとこれから」  
– 宇宙論100年の節目に総括と展望を議論

# 来年（2025年）の理論懇シンポジウム [議題]

会場：筑波大学

日程（案）：12/17（水）－19（金）

テーマ（案）：「宇宙物理における数値シミュレーションとAI」

LOC：矢島秀伸ほか

SOC：理論懇運営委員＋事務局長

口頭発表は現地開催（状況によりハイブリッド形式）

→**総会で承認された。**

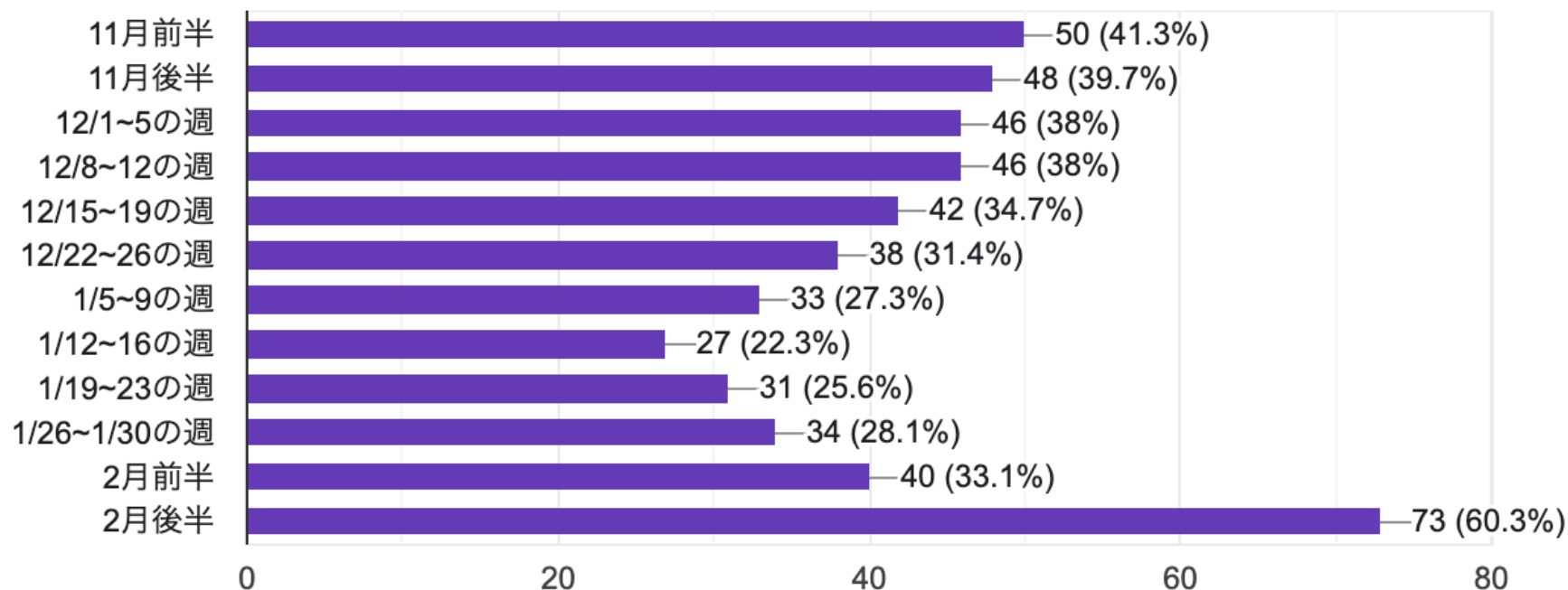
# アンケート結果（2024/12/12-12/18実施）

理論懇シンポジウム日程についてのアンケート[rironkon:03803]にご協力いただきありがとうございました。121名の方から回答いただきました。

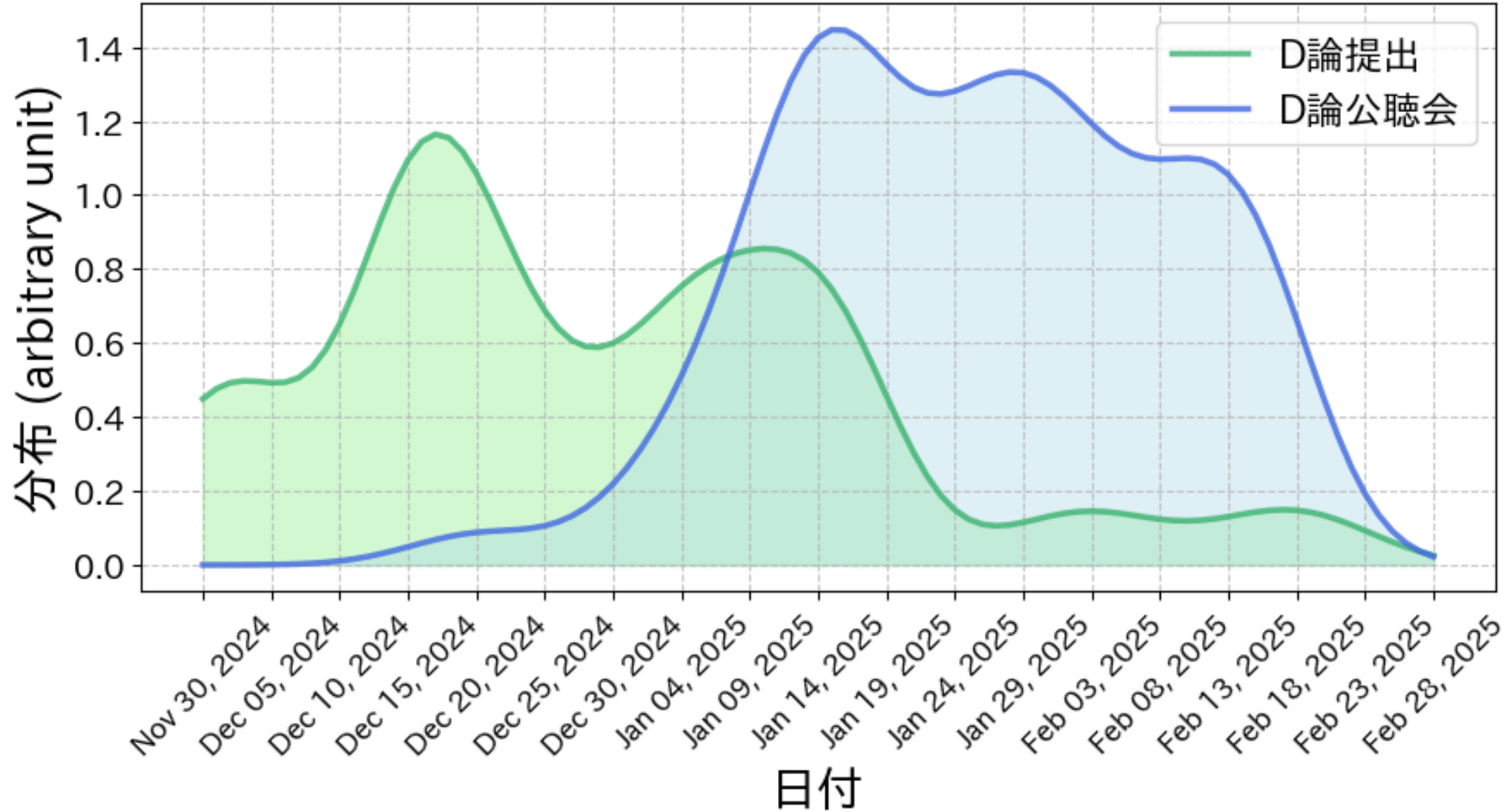
2025年の理論懇シンポジウムの開催時期で相対的に参加しやすい期間を選んでください（複数回答可）

 [グラフをコピー](#)

121件の回答



# アンケート結果（2024/12/12-12/18実施）





# アンケート結果（2024/12/12-12/18実施）

自由記述欄にもさまざまなご意見をいただきました！ありがとうございます。

## （変更希望）

- クリスマスだけは避けていただきたいと思います。
- 今の時期だと、忙しくて行けない。（博士審査と家庭）

など14件の意見

## （現状維持希望）

- 学会の間で、年末がちょうどいい
- 今のままでいいです。

など5件の意見

## （中庸）

- 共働き家庭が増えていると想像されるので昔のように大学の事情のみを考慮した日程調整は再考の余地があるように思う。
- 若手奨励賞の設立経緯にも鑑み、D3が発表しやすい時期になることが最優先だと思います。シニアスタッフが参加しやすい時期というのは探しても存在しません

など6件の意見

## （時期はともかくハイブリッド希望）

- hybrid形式にしていただければ助かります

など3件の意見

一部抜粋。全意見は別添を参照。

# 来年度以降

- 基研 - 本郷 - 基研 - 立教大 - 京大 (宇物) - 国立天文台 - 名古屋大 - 基研 - 国立天文台 - 筑波大 - IPMU - 国立天文台 - 大阪大 - 東北大 - 東大 - 基研 - 国立天文台 - 名古屋大('20) - ICRR+IPMU('21) - 福島大('22) - 弘前大('23) - 国立天文台('24) - 筑波大('25)
- 理論懇MLにて2026年以降の開催地立候補を募集 (@12/16)  
**よろしくお願ひします。**

# 事務局ローテーション

- **3Nルール** 「常勤（任期5年以上）の理論懇スタッフが**3N人以上**いる研究機関は、一回のローテーション中でN回担当する。ここでNは零以上の整数。事務局の任期は1年ごとの持ち回りで、10月1日から翌年9月30日までとする。」

$N \geq 2$ にただちに該当するのは:

$N=3$  国立天文台科学研究部

$N=2$  名大理、東大物理+RESCEU、東北大天文、筑波大物理、ICRR+IPMU

# ローテーション(確認)

- 東大天文 --> 東大柏 (2年) --> 弘前大 --> KEK --> 山形大 --> 理研 --> 京大天体核 --> 京大宇物 --> 東北大天文 (2年) --> 名大物理 (2年) --> 東大教養 --> 京大基研 --> 東大物理・RESCEU合同 (2年) --> 阪大宇宙進化 --> 国立天文台科学 (3年) --> 筑波大物理 (2年) --> 千葉大物理 --> Science Tokyo 物理・地惑 --> 東大天文 にもどる

# 天文天体物理若手夏の学校について

→例年通り10万円の支援が総会で承認された。

# 別添：理論懇シンポジウム日程のアンケート結果

文責：諏訪雄大（東大総合文化）

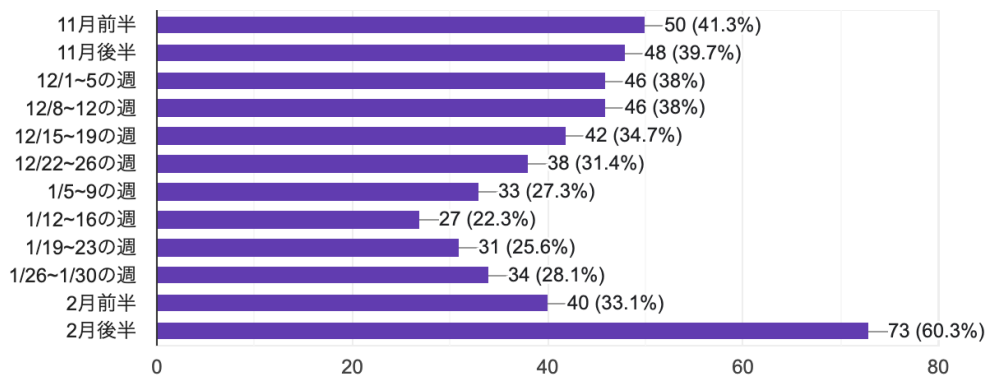
最終更新：2024年12月24日

## 【開催時期の投票】

2025年の理論懇シンポジウムの開催時期で相対的に参加しやすい期間を選んでください（複数回答可）

[グラフをコピー](#)

121件の回答



1月中旬を底にV字分布をしていることがわかる。

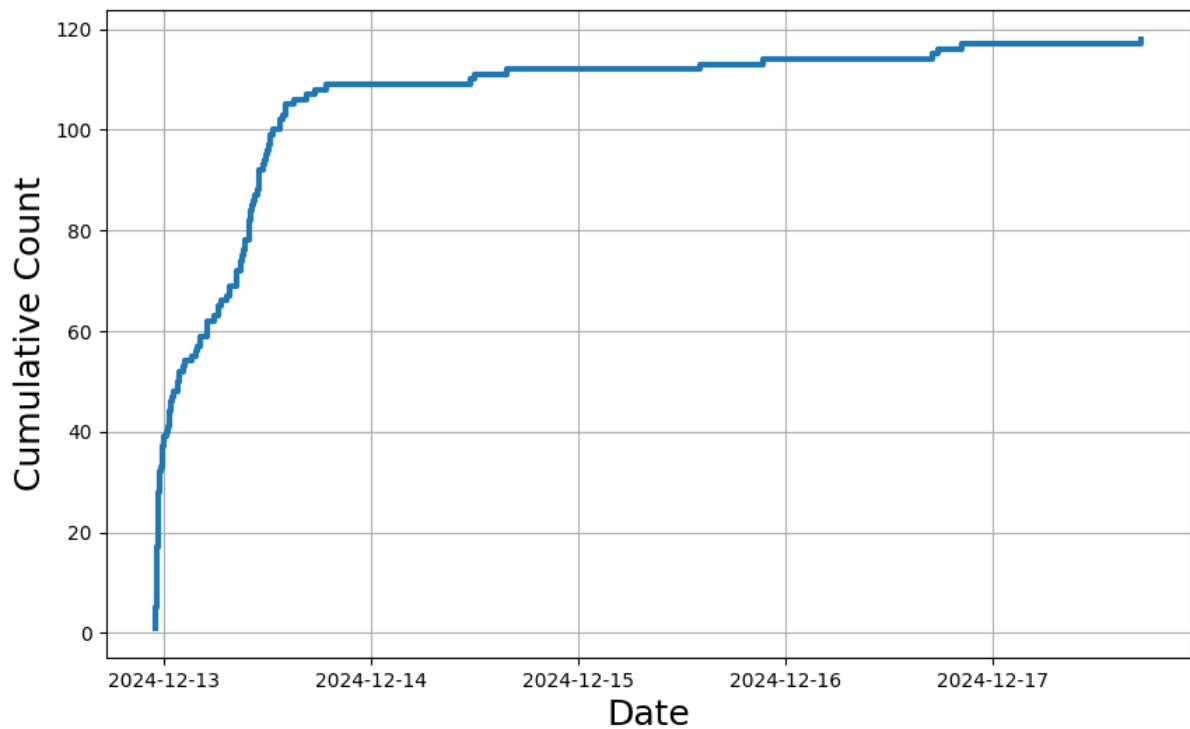
もっとも支持されているのが2月後半。学位審査や入試業務が一段落している機関が多いためと考えられる。ただ、例年この時期から研究会が増えるため、そこに理論懇シンポをぶつけるとバッティングによって参加できない人が増える可能性がある。

このデータをもとに、LOCにとって運営しやすい時期を選んでもらうのがよい。

11月に実施する場合は、理論懇運営委員の任期（現状、12/1から11/30）を変更しないと理論懇総会の実施に影響がある。

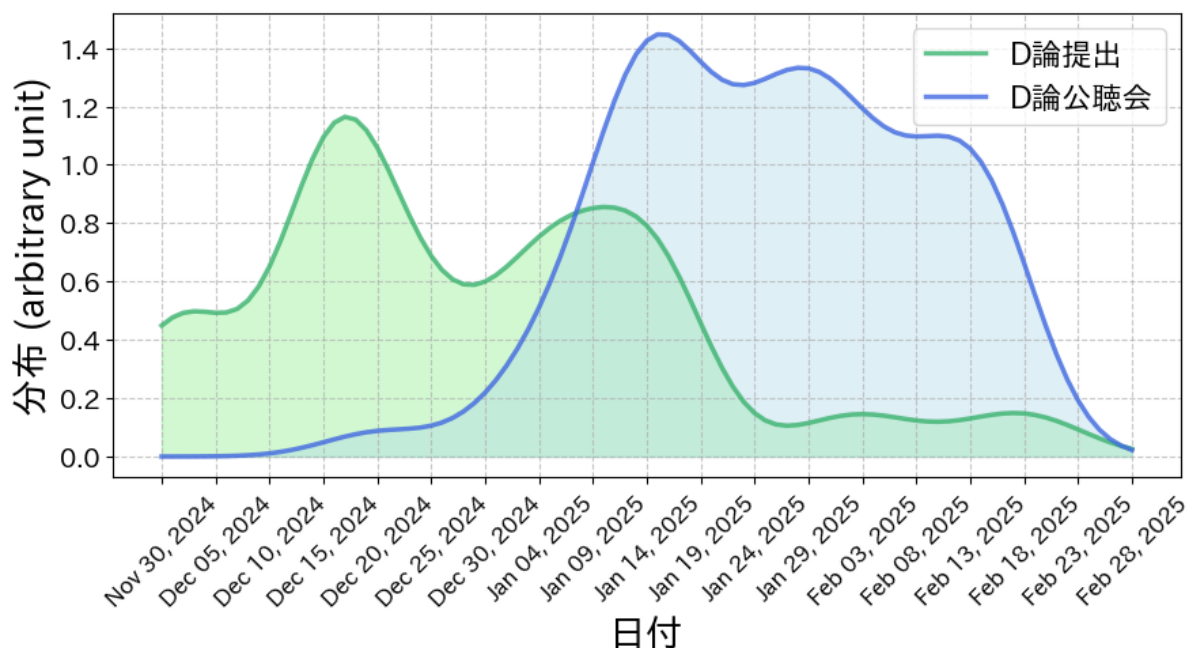
## 【参考データ】

### 回答数の時間発展



運営委員3人分を除く118人分の回答の時間発展。100を超える意見が12時間ほどで集まった。理論懇会員のシンポジウム開始時期への関心の高さが伺える。最終的な回答数は121。理論懇の全会員数は579名（2024年12月20日段階、事務局調べ）なので、21%弱の意見。周知および回答可能期間が短かったが、比較的多くの意見が集まったと言えるのではないか。

## 標準的な博士論文の提出時期と公聴会の時期



回答はさまざまな表記だったので、その中央値に対して5日の半値幅を持つガウシアンと表現して足し合わせた。提出は12月から1月初旬のところが多く、審査会は1月から2月中旬に広く分布。

このデータも、今後のシンポジウムの日程決定で参考になるものである。

## 理論懇シンポジウムの時期についての自由意見まとめ

### (変更希望)

- クリスマスだけは避けていただきたいと思います。
- 12/24ごろから子供の冬休みが始まるため、シンポジウムに参加するとその間妻一人で働きながら子供の面倒を見る必要が生じるなど家族の事情を考えると非常に参加しづらい。
- 現行よりもさらに遅くして12/27-29でも良いかもしれません。
- クリスマスは避けた方がよいと思う
- 今の開催時期だと、航空券の高騰などの理由で、地方から参加し辛いかと思います。地方開催でも、東京を経由する必要がある場合は同じです。
- 理論懇のこれまでの開催時期は小学生の子供のいる家庭では小学校が冬休みになっており、より参加を難しくなっています。開催時期はぜひ学校の冬休みを避けてほしいと感じます。
- クリスマスは家族（特に小さな子供）がいる人にとっては参加しづらいと思います。
- 必ずしも冬の時期でなくても構わないと思います。
- 今の時期だと、忙しくて行けない。（博士審査と家庭）
- センター試験直後から一月末までは、大学で入試は行わないはずなので、このときは全国的にフリーな気がしております。



- 8月お盆の後は、他の大きな研究会などはないような印象を持っておりますので、8月お盆後も候補として考えていいのかな、という気がします。8月の場合、博士や収支論文の中間発表のような形で、大学院生には発表に臨んでもらうような企画を考えてもいいのかな、とも思いました。
- 博士論文公聴会後の2月後半がいいと思います。
- 12/24以降は家族のいる人たちにとっては、参加しにくい時期だと思います。海外の標準からしても、異常な時期に研究会をやっているということになっています。働き方改革の観点からも、12月上旬から中旬もしくは、1月の年明けに移動するのが望ましいと思います。
- 理論懇の運営ありがとうございます。理論懇シンポの日程についてですが、3月でも良いのではと思いますので、以下の通り意見を述べさせていただきます。

日本学術振興会の採用結果が出た後、研究員としての進路が決まっていなかった方々にとって、年末の理論懇シンポジウムは自身をアピールできる貴重な機会の一つとして機能してきたと認識しています。しかしながら、近年は科研費の採択結果が2月末に公表されることを考慮すると、シンポジウムを3月前半に開催することで、新年度からの科研費による雇用の可能性を模索する機会を提供できるのではないかと考えます。ただし、進路決定が3月までずれ込むことは、当事者の精神衛生上の観点から懸念される部分もあり、この点については慎重な検討が必要かと思えます。

また、最近では月曜祝日が増え、12月27日頃まで授業期間がある大学も増えており、大教室の確保という実務的な観点からも、授業期間外での開催が望ましいのではないかと思います。

何度も出ている意見かとおもいますが、特に科研費については状況が変わっている側面もあると思いますので、記述させていただきました。よろしく願いいたします。

#### (現状維持希望)

- 忘年会を兼ねているので、この時期でよい。
- 学会の間で、年末がちょうどいい
- 他に参加したい研究会等の兼ね合いから、なんやかんやで現在のクリスマス前後の時期が最も参加しやすいです。また、D3講演も年度末に科研費雇用の公募が多く出ることから、1月や2月の開催だと、若手が売り込みの機会を失するという意味で非効率かと心配します（杞憂ならば良いのですが）。
- 他の研究会、国際会議などは12月末に開催されると想定される理論懇を避けてスケジュールされていると思うので、極端な変更は混乱を起こす可能性がある。少なくとも2025、26年度は今のままにして、その後どうするのか、といった長期的なビジョンで議論した方がいい。
- 今のままでいいです。

#### (中庸)

- 共働き家庭が増えていると想像されるので昔のように大学の事情のみを考慮した日程調整は再考の余地があるように思う。
- 意図的にクリスマスに重ねるのは悪い習慣で、本当は毎年、努力して避けるべきだと思いますが、年末か年度末になるのは、やむを得ないと思います。
- 現在の日程では参加の優先順位は低くなるかと思えます。他に予定がないので参加していますが。
- 年末特にクリスマスに設定というのは昭和の頃ならともかく、現状では無理があるように思います。と言って今は大学も授業実施が厳しく、他に空いているのはどこというのは難しい

のもそうかと思います。どうしても余裕が出てくるのは夏休みや春休み、学期や入試が終わったあととなります。そうすると物理学会や天文学会や研究会と重なることにもなります。理論懇でまとまったテーマで話を聞く、交流するのは重要なので、続けていくのが良いと思いますが、運営側の大変さも増しているかと思うので、位置づけも含め、どうするか議論が必要そうです。

- 若手奨励賞の設立経緯にも鑑み、D3が発表しやすい時期になることが最優先だと思います。シニアスタッフが参加しやすい時期というのは探しても存在しません
- 博士論文公聴会の時期を避けるならば、2月開催の可能性もあり得るかもしれません。

#### (時期はともかくハイブリッド希望)

- hybrid形式にしていれば助かります
- すべての意見を聞くと開催可能な日程の解なしとなるでしょう。ハイブリッド形式にして、そのための機材が必要ななら理論懇の使いみちがなかなか見つからない財源から出すなりして、現地、オンラインどちらかで参加の機会が確保できるようにしてもらえればいいかと思っています。
- オンラインと対面併用のハイブリッド開催をのぞみます。

#### (その他)

- D3の発表会であることも考えるとあまり早すぎない方が良いでしょう。ただ、すべてが終わった2月だと、PD先を探すという意味では遅すぎる。だいたい1月中が4月はじまりの上申書提出期限では。
- 1～2月は卒論、修論、入試業務、授業の期末試験の採点と成績報告などで業務が集中するので、参加できないので、絶対に避けて欲しいです。
- 1月下旬は修士論文の個別審査会、学部生の卒論提出・発表会があります。
- 時期よりも、最近はホテル代の高騰が激しいため、妥当な値段の宿泊施設が十分に確保できない地域は会場に選ばないでほしい。
- 1月、2月前半は、大学は博論・修論・卒論で忙しいと思います
- 運営委員だけで大きな日程変更を決めてしまうと、反発があるかもしれません。1月、2月の場合です。
- アンケートの実施、ありがとうございます。